

2021年7月26日

あおぞら投信株式会社

「金融を 科学する時 その中に

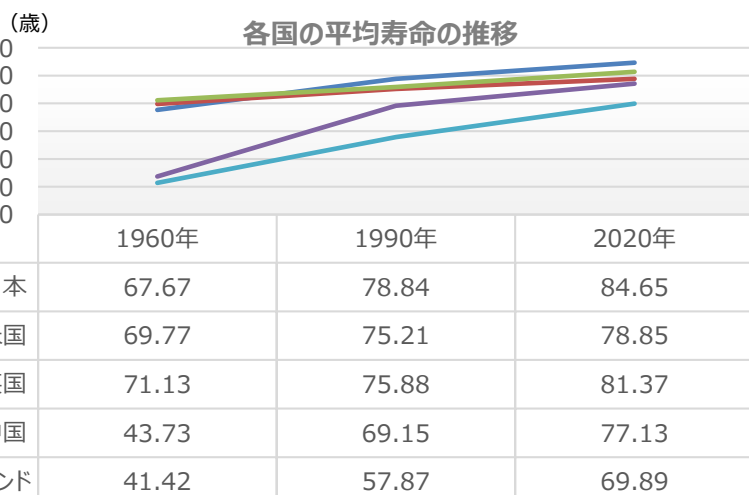
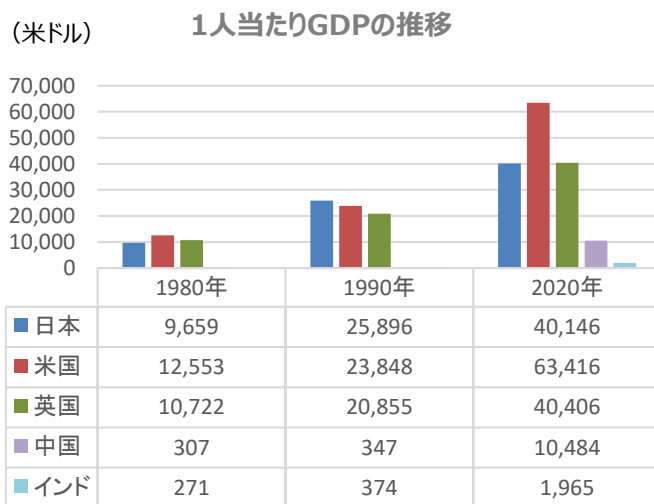
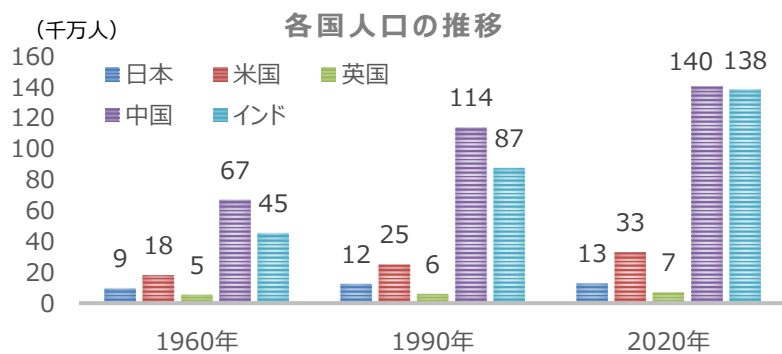
人の気持ちも 映るものかと」

今年(2021年)の前半を振り返ると、概ね世界の株式市場は堅調に推移してきました。昨年来の新型コロナの影響で厳しい状況が続いている業種、企業がある一方で、新たなニーズに応える形で伸びている業種、企業もあります。改めて考えるべきは、企業の本源的価値をどのように捉えるかではないでしょうか。株式市場の企業評価は将来のキャッシュフローであることは言うまでもないことです。ただし企業情報として入ってくるもののほとんどは過去の状況説明なのです。すなわち、我々市場参加者が企業の本源的価値を見出すための情報は、通常の報道にはないということが前提です。

世界の資本市場の中では常に本源的価値を問われるのが当然のことです。そして新型コロナ禍での世界の株式市場が示していることは、この社会変化への適応力(adaptation)です。あらゆる企業が現在の課題と、さらにその先の変化に対していかに適応していくかを決定する必要があります。そのためには、先を見る力が必要となるのです。すなわちResearch(分析)でありMarketing(市場調査)が欠かせないものです。したがって、本源的価値を生み出し続けるであろう企業は、このResearchとMarketingの2つの柱がしっかりとしている必要があることは自明です。特に現在は、人類が置かれている環境の変化に対しても、企業の取り組みがその企業の存続を決めるわけで、どれだけの資源を割く必要があるかの判断も喫緊の課題です。短期的な株主資本主義ではない、将来に対する投資をすることで利益還元を可能とする企業であるのか、という問いかけが現在の株式市場に反映されていると思います。したがって、他の株式市場と比較してパフォーマンスの劣後している日本の株式市場の課題はここにあると考えるのです。

(参考:『Adaptive Markets(適応的市場仮説)』アン・リュウ・W・ロー著 2020年)

柳谷俊郎



出所: 世界銀行、World Economic Database April 2021(国際通貨基金)のデータを基にあおぞら投信が作成。

本資料は情報の提供を目的としており、何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、本資料作成日現在の当社の見解であり、事前の予告なしに変更される事もあります。投資信託の取得に当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)等の内容を必ずご確認の上、ご自身でご判断ください。

商号: あおぞら投信株式会社 金融商品取引業者: 関東財務局長(金商)第2771号

加入協会: 一般社団法人投資信託協会 ホームページ・アドレス: <http://www.aozora-im.co.jp/>